

コントローラサーバUCS C240 M4の交換 – CPAR

内容

[概要](#)

[背景説明](#)

[省略形](#)

[MoPのワークフロー](#)

[前提条件](#)

[バックアップ](#)

[状態の予備確認](#)

[コントローラクラスタでのフェンシングの無効化](#)

[新しいコントローラノードのインストール](#)

[オーバークラウドでのコントローラノードの交換](#)

[障害が発生したコントローラノードの削除の準備](#)

[新しいコントローラノードの追加の準備](#)

[手動介入](#)

[コントローラでのオーバークラウドサービスの確認](#)

[L3エージェントルータの確定](#)

[コンピューティングサービスの最終決定](#)

[コントローラノードでのフェンシングの再起動](#)

概要

このドキュメントでは、Ultra-Mセットアップで障害のあるコントローラサーバを交換するために必要な手順について説明します。

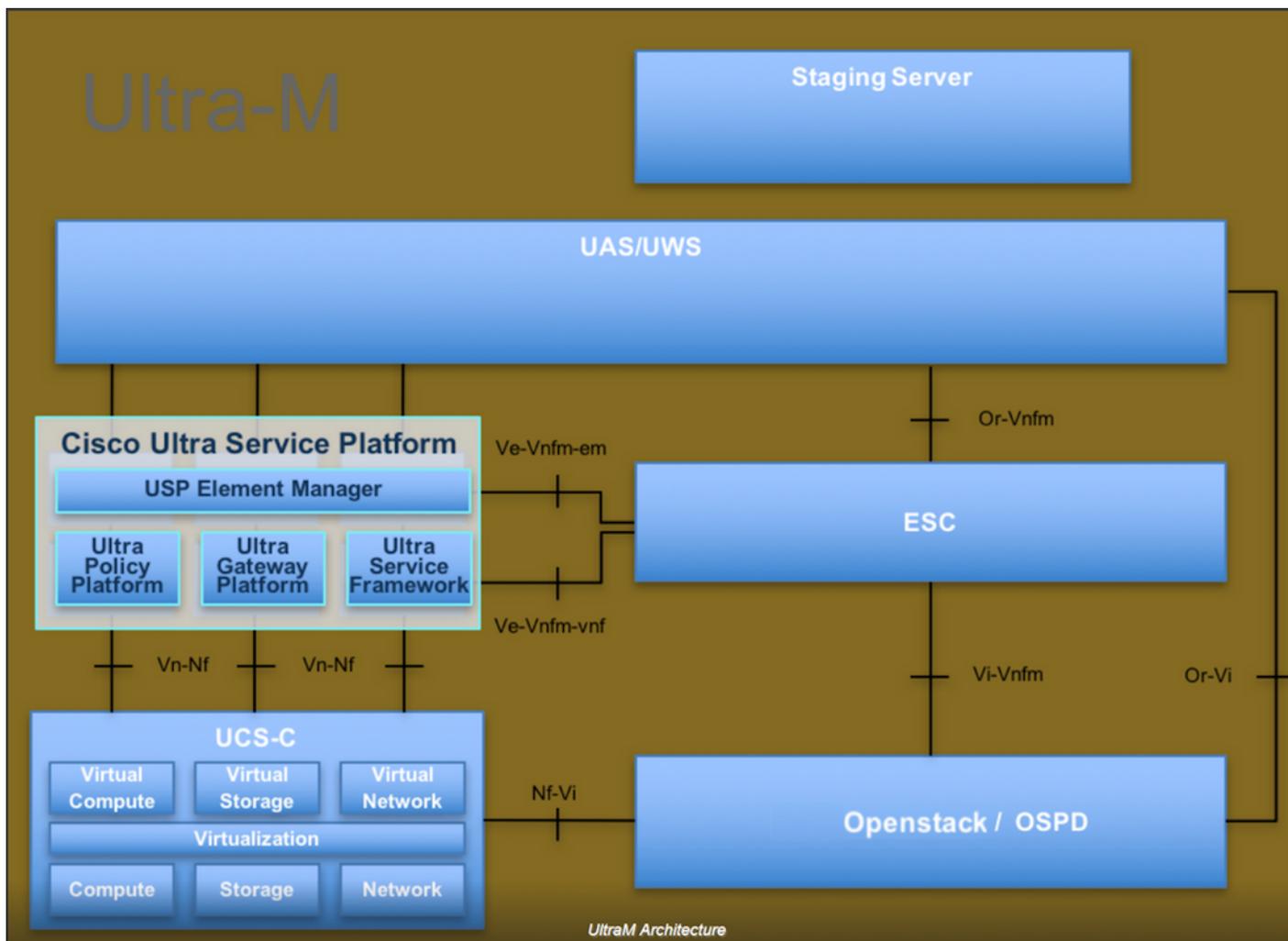
この手順は、Elastic Services Controller(ESC)がCisco Prime Access Registrar(CPAR)を管理せず、CPARがOpenstackに導入されたVMに直接インストールされているNEWTONバージョンを使用するOpenstack環境に適用されます。

背景説明

Ultra-Mは、VNFの導入を簡素化するために設計された、パッケージ化および検証済みの仮想化モジュールパッケージコアソリューションです。OpenStackは、Ultra-M向けのVirtualized Infrastructure Manager(VIM)であり、次のノードタイプで構成されています。

- 計算
- オブジェクトストレージディスク – コンピューティング (OSD – コンピューティング)
- コントローラ
 - OpenStackプラットフォーム – Director(OSPD)

Ultra-Mのアーキテクチャと関連するコンポーネントを次の図に示します。



このドキュメントは、Cisco Ultra-Mプラットフォームに精通しているシスコの担当者を対象としており、OpenStackおよびRedhat OSで実行する必要がある手順について詳しく説明しています。

注：このドキュメントの手順を定義するために、Ultra M 5.1.xリリースが検討されています。

省略形

- MOP 手続きの方法
- OSD オブジェクトストレージディスク
- OSPD OpenStackプラットフォーム - Director
- HDD ハードディスクドライブ
- SSD ソリッドステートドライブ
- VIM 仮想インフラストラクチャマネージャ
- VM 仮想マシン
- EM エlement マネージャ
- UAS Ultra Automation Services
- UUID ユニバーサル一意Identifier

MoPのワークフロー

この図は、交換手順のワークフローの概要を示しています。

